

高温時期のカキ果実収穫後の取り扱いについて

JAグループ和歌山農業振興センター



【はじめに】

9月上旬から収穫される極早生柿や刀根早生は、残暑の中での収穫になるため、脱渋処理後に軟化が多発することがあります。

特に令和3年産は選果場から市場への輸送期間中に軟化が多発し、市場から産地での軟果抑制対策が強く望まれています。

軟化を抑制するため、9月の高温期は専用の有孔ポリエチレン製袋（通称：有孔ポリ）の使用による果実軟化抑制対策を確実に実施しましょう。

【果実軟化の原因】

この時期の果実の軟化は、高温による収穫後の果実への水分ストレスが一因となっています。過去の試験では収穫後、日陰に置いていても収穫から時間が経つほど果実の水分蒸散が進み、軟化する確率が高くなる結果が出ています。

【有孔ポリの被覆について】

脱渋処理以降の軟化を抑制するため、収穫した果実はすぐにコンテナに移し、有孔ポリをかぶせてください。

選果場に持ち込む際に有孔ポリをかぶせても効果はありません。必ず収穫直後に園地をかぶせて下さい！

使用する袋は、開孔（穴をあけた）処理を施した専用の袋を使用し、開孔処理していない袋、手製の袋は使用しないでください。

【取組み時期】

初収穫（9月上旬）から9月中旬まで（最高気温が概ね30℃を下回るまで）本法で収穫・集荷してください。

また、気温の推移によって取組み期間を延長することがあります。

【果実軟化を抑える果実の取り扱い】

●圃場での対応

①収穫は比較的涼しく、果実の温度が上がっていない午前中に行いましょう。

- ②収穫後は速やかにコンテナに移し、有孔ポリで被覆します。
(被覆の際は果実の上に新聞紙を1枚乗せましょう。)
- ③果実の入ったコンテナは直接日光が当たらないように、遮光シート等で日覆いをして日陰に置きましょう。

●運搬時の対応

- ①選果場等への持ち込みも有孔ポリを被覆したまま行います。
- ②運搬の際は荷崩れ・有孔ポリの飛散防止、果実への直射日光を避けるため、遮光シート等をかぶせ、必ずロープで固定します。

【注意事項】

雨天時に収穫した場合は、乾燥機等で果実表面の水滴を乾かしてから有孔ポリをかぶせてください。ただし、過度の乾燥は軟化の原因になるので注意してください。

おわりに

近年は温暖化に伴い、柿収穫期の高温が続く現状となってきました。このまま軟化が多発する状況が続けば、日本一の柿産地の信用を落とす原因になることが予想されます。産地一丸となり、少しでも軟化果実の発生を抑制するため、確実な有孔ポリの使用について生産者の皆様のご協力をお願い申し上げます。


収穫から荷受けまでの果実の取り扱い (9月期)

収穫時の 注意点

収穫は晴天高温時を避けて行いましょう。
収穫後の果実は遮光シート等で日覆いをして日陰に置きましょう。



(注意)
ポリ袋内に水滴が着き曇ることがありますが、絶対にポリ袋を外さないでください。
※新聞紙をコンテナ内に入れるのはこの水滴が果実に滴ると果実が汚れるのを防ぐためです。

 荷崩れの防止、果実への直射日光を避けるため運搬の際はシートを被せ、**必ずロープをかけます。**



パレット上にはポリ袋を外さずに積み上げます。

お疲れさまでした。